

濱口梧陵国際賞授賞式



一般財団法人沿岸技術研究センター
研究主幹 玉石 宗生

わが国の津波防災の日である11月5日が、2015年の国連総会において「世界津波の日」に制定されたことを受け、2016年に創設された「濱口梧陵国際賞」は、津波防災をはじめとする沿岸防災技術分野で顕著な功績を挙げた国内外の個人又は団体を表彰するものです。今般、2021年の受賞者が次の2名・1団体に決定し、11月29日（月）に、斉藤鉄夫国土交通大臣（上記写真）、二階俊博自民党国土強靱化本部長のご臨席の下、海運クラブにて授賞式が開催されました。



松富英夫 名誉教授



Gerassimos A. Papadopoulos 会長



太平洋津波博物館

（出典：太平洋津波博物館ウェブサイト <http://tsunami.org>）

○松富英夫 秋田大学名誉教授／中央大学研究開発機構客員教授
・長年に渡り、津波の挙動に関する研究を行ってきた。1995年からは国際測地学地球物理学連合IUGGの津波委員会の委員として活躍し、津波の発生メカニズムや被害軽減について国際的に貢献した。氾濫流速や漂流物衝突力の推定式を提案し、この式は「松富の式」として広く知られている。

○Gerassimos A. Papadopoulos 国際自然災害防止・軽減学会会長
・ヨーロッパ地中海地域の津波分野において主要な科学者の1人。津波リスクの啓蒙に貢献した。ユネスコ政府間海洋学委員会／北東大西洋・地中海津波早期警報システムの共同創設者であり、2017年から2020年までは議長を務め、そこでヨーロッパ地中海地域津波警報システムを適切に管理した。

○太平洋津波博物館（アメリカ）
・1994年にハワイに設立された、世界で最も歴史ある津波博物館の一つである。1946年のアリューシャン地震、1960年のチリ地震で発生した津波によるハワイの惨状を次世代に伝承することを目的に設立された。学校用の津波の履修科目を作り、津波の科学研究を奨励し、メディアが命にかかわる情報を正確に報道するための教本も配布した。

（※）濱口梧陵氏は、江戸時代末期（1854）の安政南海地震で自らの資産を投げ打ち村人の命を津波から守った人物



授賞式